明治四十九年一月二十五日第三種郵便物認可
大正十四年八月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人新報

第三百三十號

我らの目標

世界の
禁酒・純潔・平和

八月號

世相の不安とその對策　久布白落實
福島縣下二日の旅　N・O・K
ロバートソンを讀む　落實
「トーチベアラー」を讀みて（五）　ガントレット恒子
聖者の勇氣　ガントレット恒子
歪められた微笑　宮添縫
禁酒　野崎英子

基督教婦人矯風會

ライオン煉歯磨

家庭用

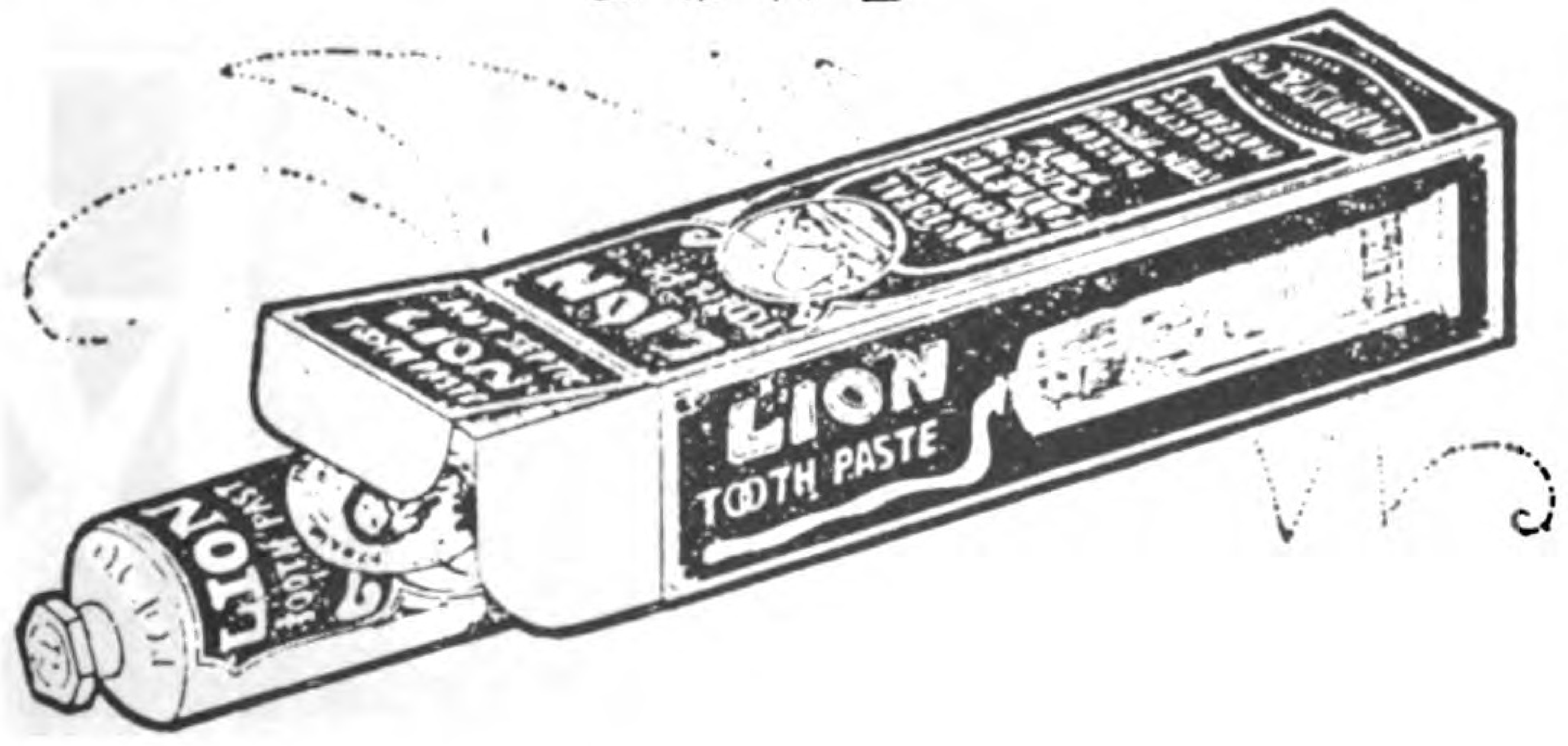
チューブ入

（特大形）

清新の香味最もなつかしき
ライオン煉歯磨チューブ入
新製特大形は、
多人数の御家庭や、長途の
御旅行には、至極お徳用で
御便利ですから、到る處で
白熱的歓迎を受けてゐます。

ライオン標語
一に歯磨二に含嗽
六根清浄歯も清浄

金八拾錢



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

第三百三十號目次

世相の不安とその對策……久布白落實……四
福島縣下二日の旅……N・O・K……八
ロバートソンを讀む……落實……一二
「トーチベアラー」を讀みて（九）……ガントレット恒子……一四
聖者の勇氣……ガントレット恒子……[illegible]
時事・海外……エス・エム……二五
母のたまもの……小泉たね……二七
歪められた微笑……宮添繁……[illegible]
禁酒……野﨑英子……[illegible]
胸は高鳴る……しづえ……[illegible]
本部日誌抄……本部だより……（三三―三四）……活動……三五

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

FUJIN SHIMPO

No. 330 | CONTENTS | August 1935

Social Condition of Present Japan and its Remedy.. Mrs. N. O. Kubushiro.
Two day's Trip in Fukushima-ken........................N. O. K.
On "Robertson's Work".. Ochimi.
To read "The Torch Bearer" (5)........ Mrs. C. T. Gauntlett.
"Saintly Courage"........................... Mrs. C. T. Gauntlett.
Current Topics—News Abroad.................................. S. M.
Maternal Grace.......... .... Mrs. T. Koizumi.
"Distortis Smile"................................... Mr. K. Miyazoe.
"The Temperance"...................................Miss Y. Nozaki.
A poem.. Shizue.
Headquarters News ....
Local Activities ....

□少年禁酒軍參考書類□

（禁酒軍設立に必要なる印刷物）

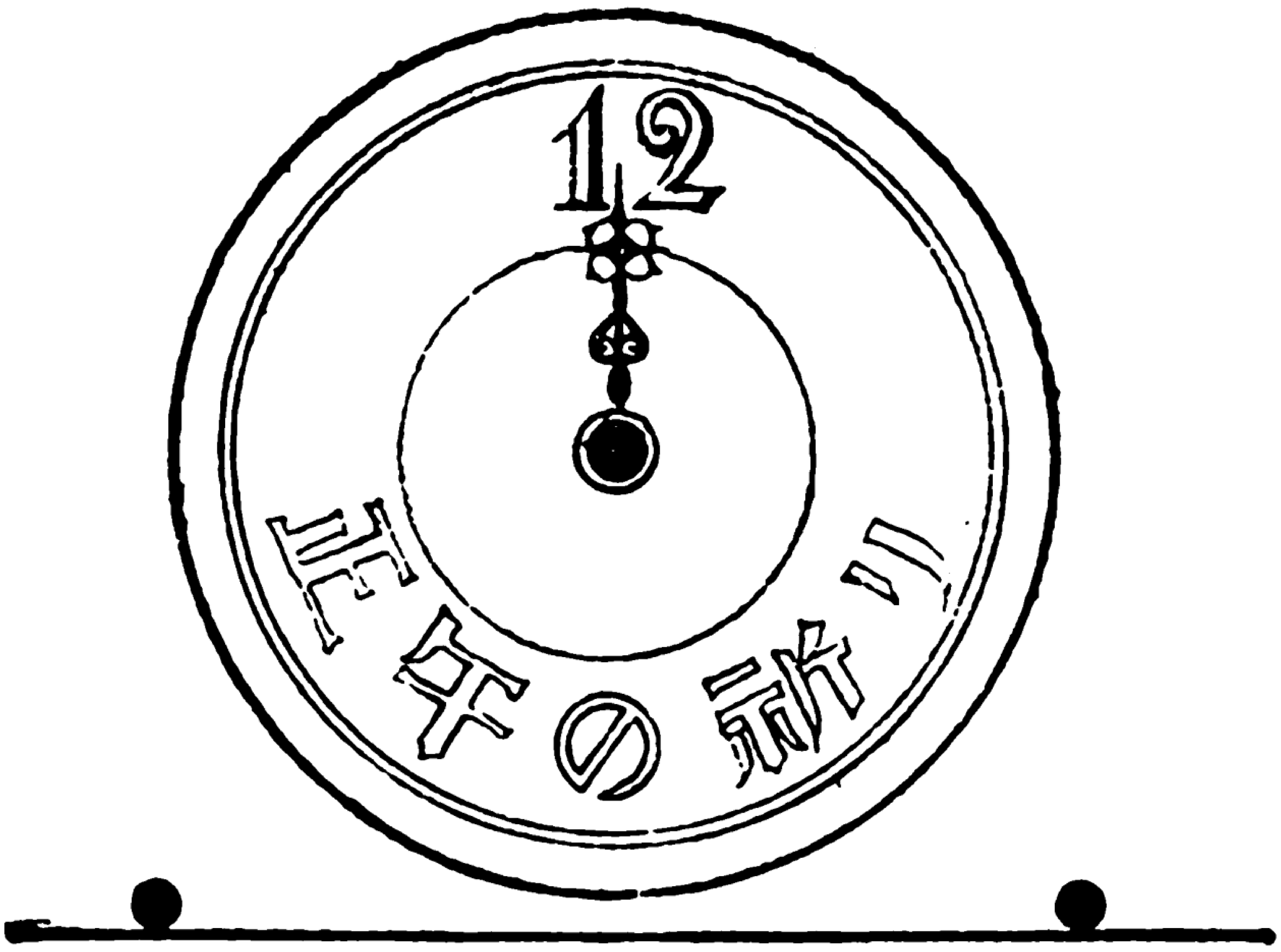
		單價	郵稅
少年禁酒軍規則	進呈		2錢
同　案内	同		2
同　誓約書	十枚以内ハ進呈	二枚1錢	2
同　演說課規則	進呈		2
同　懸賞演說集 1. 2. 3.	調製中	30	2
同　メタル（銀製七寶一個）		1.00	2
同　徽章（七寶一個）		25	2
少年新報	月一回發行一年分30錢	2	2

東京市外大久保百人町三六〇
基督敎婦人矯風會本部內

申込所　少年禁酒軍本部

振替東京四七四五〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



わかき人は何によつてかその道をきよめん、聖言にしたが
ひて愼むのほかぞなき、われ心をつくして汝をたづねもとめ
たり、願くはなんぢの誡命より迷ひいださしめ給ふ勿れ、わ
れ汝にむかひて罪ををかすまじき爲になんぢの言をわが心の
うちに藏へたり、ほむべきかなエホバよ、ねがはくは律法を
われに敎へたまへ

詩篇一一九

世相の不安と其對策

久布白落實

一

此頃の新聞は、三面にゆくと、きつと、他殺、自殺の二つ三つない事はない有樣です、ことに十九や廿歳の投身自殺、縊死、鐵道往生、子供を殘された老媼の自殺、妻に死なれた子連れの男の自殺、數へ立てれば切りもない程に出ます、その上又其殘忍なことも、親殺、妻殺、幼兒殺、どんな事でも殆んど行はれない事はありません、家庭などに入れ度くないと思ふ事は、殆んど毎日の樣です、これに對して、私共は何と考へたらいゝでせう、どうせ新聞は種子さがしだからとか、世間に在る事だから仕方がない、と云つた風に無關心に過ぎてよいものでせうか、無論何時の時代にも、自殺も他殺も有り、又、何處の國にでも、自殺も他殺も在るには違ひありませんが、昨今の我が國のやうでは、人が見慣れて氣にもせないやうになりはせないでせうか、國家の將來を考へて、空恐ろしい心地が致します。

二

原因は樣々でせうが、要するに、不安が其根底にあるのではありますまいか、子供心に受驗不安、青年男女に戀愛のなやみ、職業の不安、家庭の不和、生活難、これら凡べてが互ひにからみ合つて、一種の厭生觀を造り、自分も死に、道連もつれてゆくと云つた事になるのではありますまいか。

子供心にも、決して昔のやうな伸々した氣持ちは有りませぬ、小學を終れば中學、中學終れば高等、大學、辛うじて凡べての難關を突破して大學卒業となつても、今年の如き不景氣では、電氣科を出た人すら一級に十人も遊んで居ると云つた有樣で、さん〴〵苦鬪した揚句に何等芳しい目的を見出す

事が出來ませぬ、又結婚の問題でも、昔の方法で、兎も角親が息子には嫁、娘は縁につくまでは其責任が終らぬと覺悟して、如何なる苦勞しても其準備と世話とに努力した時代はホツ／＼去つて自由に自ら準備し、互ひに見出すと云ふやり方にはまだ社會も青年男女自身も熟しませぬ、それ故思はぬ誤解に陷づたり、戀愛の方角違や、未熟な戀愛をしたりして、この爲めにもどれ丈けの親等が苦しみ、青年男女が絶望したりするか解りませぬ。

特に、大多數の人々にせまる生活苦は、封建時代、家族制度の夢にも見ぬ辛辣さを以つて、明治大正の人々にせまつて來ます、職を失ひ、日々せまり來る饑に對して、今日の人間は誰れに訴ふる處もありませぬ、然し一方には享樂の畑は日日開かれ、食物でも、別莊でも、旅行でも、ラヂオでも、金さへあればとゝく處にブラ下げられて居ます。

眞面目な努力も失職で報いられ、眞正直な愛も裏切られ、生活苦は日々せまると云ふ時に、周圍の無關心な享樂生活を見る時に、自暴自棄の餘り、自殺もし、又他殺もすると云ふ道理になるのも一面から無理ならぬ處も有りませう。

三

然し時代は進まねばなりませぬ、複雜になつた社會は、再びもとの單純にあともどりは出來ませぬ、私共は、此時代に相應した救濟の道、活き行く道を、こゝに發見せねばならぬではありますまいか、マンゴ樹の下に眠る、ハワイの土人を羨んで、此生の苦しみを避ける事は出來ますまい、私共の救ひは何處に在るでせうか。

幾多の方法も有りませうが、私は第一に社會を安全な場所にする事だと思ひます、社會は世界大で、これを直すは終生も足らぬ仕事ですが、然し今日の如く、家庭と社會が密接になつて來ては、私共は社會をも、私が家庭として考へぬわけには參りませぬ、昨日私は二三日振に市電に乘りました、スルト其内の廣告に、一つは寶燒酎、次ぎは櫻正宗、中央にはお中元に、赤玉ポートワイン、と云つた風に、おまけに其傍にはキリンビールがビールは酒に非ずと麗々しく廣告してあります、私はこれを見て、本年の未青年者飲酒禁止法案もどうなる事かと思ひました、日々百萬から乘る人々に、其誰れもが乘つて居れば當然見るこの廣告に、揃ひも揃つて、酒の

廣告は、勿論收入の爲めとは云ひながら、如何にも矛盾した事と思ひました、丁度この人心の荒むで居る最中に、この間警視廳が、兇行に用ひられた刄物を廉賣したと云ふ新聞記事を見た時と、同じ氣持ちに打たれました、自殺は兎に角、他殺の十中九までは酒なくしては行はれませぬ、酒を除く事は、人心を穩やかにする外面的第一義と思ひます、この酒を得易くする爲めの廣告は、不德な廣告ではないでせうか、私は我國の識者の考へがこの廣告道德に多少でも用ひられて、かゝる公衆の目につく場處に、人を過つ最大の原因を、押し擴ぐる事のないやうに有りたいものと思ひます。

■

次ぎに人を活かす途は理想に在りと申さねばなりますまい人は餓ゑても直ぐ死ぬものではありませぬ、山室氏を助けられた、吉田清太郎氏は、死んだ猫で一週間生命を支へられたともきくではありませぬか、維新の志士は多く浪人で、今日の失職者です然し其内に燃ゆるが如き愛國の至情が湧いて居て梅田雲濱の詩の如き、百世の下人を立せる慨があります、今日でも、何か一つの發明でも、又は社會事業でも、又は敎育、新聞、雜誌何にせよ、何か一つ心身を打ち込んでこれに當れば、必らずそこに一つの理想が生れて來ます、生活の爲めの事業では、事業を失へば忽ち生活難に陷ります、然し、事業に渾身の力を打ち込めば、そこに生活はついて來ます、誰れの生涯にも行き詰りと思ふ程困難又困難が折重なつて來る時は來ぬ事は有りませぬ又、何の事業でも同樣です、この時に、之の爲めに斃るればそれ迄です、然し死力を出して持ちこたゆれば、必らずそこから一道の光がさして來ます、ですから社會の改善と共に更に必要な事は各自の心に理想を與ふる事だと思ひます、昔から象なければ民亡ぶと云つて居ます、個人として、一つの理想に活き、又、民族として一つの理想に活て行く時に、必らず其處には活きる道は拓けて來ます、矢島直孝翁はよく面白い事を云ひました、兄弟の中で公共の心の少い世渡一心の妹には「お前は鷄だ、自分の餌を啄む事ほか知らない」と申たさうです、シャトルに一人の青年が在りました、職を求めて、得られぬので、何が今この町に必要だらうとさんぐ考へた揚句、數夜つづけて下町に出て眞夜中まで隅に佇んで居ると、多くの勞働者が、宿なして、

あちらの軒の下、こちらのベンチの上にころんで居るものが非常に多いのを發見しました、それで急に思ひついて、一つの廣い床下の室を借り、こゝに安い寢臺を三四十並べて、一晩十錢で泊めると云ふ廣告を出しました、するとこれを見た連中は我も我もと入つて來て、寒い時とて、室の中なら何處でもよいと云ふので泊り込みましたので、この青年は、だんだん寢臺を增し、一時は二百人から、每晩泊ると云ふ盛況を呈しました、理想と云へば難かしく聞えますが、云ひ換へれば、どうして食するかと考へる前にどうしたら益に立つかと考へるのが、つまり自ら立ち、凡べての不安に勝つ力ではありますまいか。

五

最後に必要なものは、信です、孟子も、民信無くば立たずと云はれたやうに、信が失はれたら、其時から人は死物になります、今日の民心が、これ程不安におそはれ、辛抱力もなく、反撥力もなく、又、持久力もなく病氣と云つては死に、戀に破れたと云つては死に、食へなくなつたと云つては死にすると云ふのはつまりは死ぬ前に、心が先きに、全く參つて仕舞つて居る證據ではないでせうか、戀愛と云つても今日のやうに遊戲になつて居る時、一度人間違ひをしたからと云つて一々死んで居ては、生命など幾つあつても足りますまい、又病氣と云つても今日では醫藥でいかねば精神でも、自然療法でも何でも有ります、石田三成が死刑になる前に、今日は腹工合が惡いから柿を食べないと云つたと云ふのは有名の話ですが、呼吸の通つてる間は人には望みは有ります、この望みを自ら斷つなどと云ふはほんに氣短かすぎる事でせう。

今日我が國では神社の參拜を奬勵したり、いろ〳〵と思想善導の方法を講じられて居るやうですが、何にしても、宇宙の實在を信じ、こゝに善と、正と、愛との實在を信じ、下には永遠の腕ありと云ふガッシリした、大丈夫な信念を以て立つなれば必らず一つの活路を見出しませう、實際、誰れでも波瀾重疊の其難關に直面して立つ時は、全く天も地も暗くなる時は有ります、然し、あの大震火災の後にも、太陽は永遠の光を投げてくれたやうに、嵐の後ろに太陽ありで、神を信ずる、信念が、大和魂を信ずる位根深く、強く、我が國民性に植ゑ付けられたなれば旭日に香ふ櫻花を誇りとする輕俊にして底淸き我が民族性が一般の力を添へ來つて、今後の世界に大和民族としての使命を果すことが出來ませう。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

福島縣下二日の旅

N・O・K

一

六月の中頃、福島へ出た事は前號にかきました、其朝のことです、私は身仕度をとゝのへて、自宅なる中野より新宿へ出で目白驛に到れば、大袋を携へて乗車する三人連の客が有る、顔を上げれば川崎氏の一家です、父君母君が貞子孃の初陣を見送るのでした。九時日暮里發の汽車に搭じ、二人は一日を車中で暮らし用意をしまた、自身は日々の仕事である通信の返事がき、併に已に明日を越えんとする婦人新報の原稿を、走る汽車と共に頁を追うて、短きもの二つを認めました、貞子孃は向ふ側に陣取り、處女講演の準備に餘念が有りませぬ。

二

やがて汽車は馳せ〳〵て水戸を過ぎ、福島縣に入り始めました、水田、未だ苗床のもの、地ならしのもの、已に美しき列に植ゑつけしもの、様々です、中村に近き線路に添うては十數名、組を爲して今日田植と云ふ所もありました、午後四時過ぎ、汽車は豫定通り中村の驛に着、こゝで二人は諏訪牧師を始め、數名の兄姉に迎へられ、荷物を一臺の車に托し一行連れ立つて靜かな街並を定められし宿へと急ぎました、貞子孃は牧師館へ、私は、鎌田氏邸へ。

翌日は花の禮拜、當夜は規定の傳道説教の夜でした、牧師は特にこの時を私共の爲めにさいて下さいました、私は數十分間、私の所信を語りました、翌朝は花の日、私は書き殘りの原稿を認むる爲め朝早く起き、禮拜時までに書き上げ、九時の集會に教會へ向ひました。

三

會堂は殆ど正方形と思はるゝ程角の秀いでた建物です、以前領主の米倉であつたとの事、説明を聞いて成程と肯定かる點も少くありませぬ、正面に飾られし花これをかこむ數十の幼子、何處も變らぬ神の業です、禮拜を終つて會食、食後直ぐ午後の特別集合をす、諏訪牧師並びに會員諸氏の御盡力で、僅かに八千有餘の町ながら、會堂は程よく充されました、川崎孃は先づ立つて「私が禁酒運動に參

加する理由—と題して幾多の例證をひき論旨明かに述べられました、ついで私は婦風會の主旨を論述し、終りて會場より直ちに郡山に向ひました。この行きさきに會員證を別ち、牧師御夫婦の盡力にて會員を得ること十六名に達しました、其内には、珍らしき人も加はりました、それは、富町婦人報德會の會長加藤老夫人です、同氏は四十年前、東京の一新聞にて婦人婦風會なるものゝ發會の模樣を見、此地にも婦人の爲めに是非會を起し度いと、矢島先生宛に手紙を認め問合せを出されたさうです、それに對し、先生は直ちに懇な手紙と規則書を送られたので、非常に力を得て、直ちに會を起したとの事で、其會が今日尚ほ四百餘の會員を有する報德會であるとの事でした私は、この老婦人より直々にこの話をきき、歸京の上は、第一に土産話に致しますと約束しましたが、其時先生は、はや睡の内に在られしとは知るよしもない事でした。

四

郡山は、福島に於ける將來ある都市です、今や勃興せんとする氣運を含んで、人口の如き已に福島市に匹敵し、鐵道の中心、縣廳をすらこゝに吸收せん勢を示して居ました、然し基督教會は尚まだ到つて微弱の有樣です、當地の牧師御夫婦は力の限り用意して與れられました、當地の縣立女學校及び實科女學校の生徒約四百五十名に話せしを始めとし、東洋紡績女工四百人、同夜、郡山幼稚園にて男女の聽衆二百名に前後三回の集會を催して、此地に將來の種子を播きました、今日川崎嬢は、二回とも出演、若き力を添へられしは感謝でした、午前の集會を終りて、午後の集會に出でんとする時、東京の電報を受けました、右せんも左せんも汽車はなし、止むなく豫定行動を豫定通りなし終へて、直ちに又會場より東京へ引き返し先生の御容體を案じつゝ東都に入つたのが、十六日の未明でした。世の中は三日見ぬ間の櫻かな實にかうして二日の旅に終りを告げやうとは思ひもかけぬ事でした。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ロバートソンを讀む

久布白落實

一

土曜の夕、東京驛を出で、一泊して、車中に旭日を迎へ、翌安息日の全一日を乘りつゞけました、頃は昨年の十月、寒暑宜しきを得、心地よさ云ふ許りなき秋の旅です、私は北九州の教化運動の一組の内に、派遣せらるゝ途中でした。

帝都紅塵の中に、日々齷齪とした生活を離れ、久し振りに心の饑を療さんと、日頃讀み度しと思ふ一書を携へて、車中の人となつたのでした、ロバートソンは、英國の產、十九世紀の上半勞働階級が將に社會に其頭角を現さんとする時代に當り、彼等と同じ戰線に立ちて、然かも彼等に捕はれず、何處何處までも人を人として又神の子として、勞働階級に自重心を與へ、中流上流と稱へらるゝ人々に反省と謙遜を教へ、眞正直な英國紳士として、教壇に使命を果し、背の勝れた人でした、スラリとして威ある姿、稍痩せて、引き締つた容貌熱烈なる意氣、强固なる意志、然かも細やかなる抒情を語る其眼、明らかにして音律に叶ふ其音調、何處までも英國紳士の典型と見得る人物でした。

ロ氏は、祖父に軍人、父に軍人を持ち、自身も幼時からの願ひは軍人たらむことでした、むしろ纖弱なる身體に、剛毅なる武士魂を抱いて、飽くまで軍職に於て、其使命を果さん事を熱望して居ました。然し彼に向つて、この門は中々開きませぬ。彼れは靜かに最後の決定を父に委ねました、父は其子を牛津大學に送り、教職即ち牧師と爲れと勸めました。彼れが意を決して之れに向つた四日の後、騎兵下士に任命すとの辭令が下りました、然し氏は其の決心を飜さず、教職に進みました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

二

牛津在學中、彼れは、非常に勉強しました。特に、詩歌に對する審美の眼は、早く其芽を現はして居ました、然し非常なハニカミヤで、終ひに一度も稱號や、賞與などを得る爲めの努力を敢てしませんでした。

就職後第一の任地は、ウインチエスターでした、此處で牧師補として一ヶ年を過しましたが終りに健康を損じ、恢復を計る爲め大陸に旅行しました、彼れの自由な魂は、自然美を飽喫して來ました、彼れは、其說教中に屢々雄大にして美妙なる自然界を、簡潔な言葉で、人々の前に躍動させました。彼れの旅行は更に彼れの結婚を以つて惠まれ、新らたなる健康と元氣を以つて彼等は新らしき任地に向ひました、チエルテンハム市の四年間の奉仕は、極く靜かに流れ行きました。其間彼れは其信仰に、思想に、牧職に、日々熟しつゝある事は爭はれませぬ。

四年の後、牛津のセントエブス市に移り、こゝに二ヶ月を過す內にブライトン市よりの招聘が來ました、此時彼れは再び其選擇決定を、監督に委ねました、彼れの無我にして信頼厚き性情をかく幸に又見出します、彼れは終ひに、意を決して、ブライトンのツリニテイー教會の牧職につきました。

三

このツリニテイー教會は、英國中、最も教養ある人士で充されて居る教會の一つでした、長く蘊蓄された同氏の凡べては、こゝに始めて其自由なる捌け口を見出しました、彼れの深くして純なる信念、眞理を發見するに聰明なると之を發表するに大膽なる、人を愛して倦まざる牧者の至情、凡べては日を追うて、ヒシ／＼と會衆の心に徹して來ました、日曜每に、音もなく會衆は堂に充ち／＼て、座席を得るに困難を感ずるに到りました。

禮拜每に、會衆は、不思議な力を以つて、各自の魂の要求を充し、妄を開き、光明を示して、聖書を說く、新らしき牧師の前に、熱心なる顏と、水を打ちたる靜かさと深き注意を以つて群集して來ました。然し同時に又反對、迫害すらも集りました、ロ氏の說く處は、キリストの福音を、新らしき革袋に入れたもので、新時代の要求を充さすと共に、舊時代の慣習や陋習を打破するに何の遠慮もないものでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ことに當時問題となつた事は、勞働階級の覺醒です。この市に住む、勞働者、百名計り相集まつて、一つ讀書クラブを作る企畫がありました、ロ氏は一日彼等の集會に出で、其各自が進ぶる處の眞面目にして、向上心に富む事に大に意を強うし、折あらば進んで助くるの決心をして居ました。然し時代の傾向は尙ほ未だ、此等の自覺せんとする新らしき市民に對して、何等の同情もなく、むしろ批評と猜疑の目を以つて之を見るの有樣でした、愈々會の組織を見るに及び彼等はロ氏に、其發會の講演を依賴しました、ロ氏の謙虛な性格は、自身はこの市に於ける未知の一市人としてかゝる重大な責を負うに堪へずと云つて謝斷りましたが、終ひに彼等の強請によつて、この講演を諾しました、この時から、ロ氏は、單に宗敎界に於ける新思想家のみならず、又勞働運動に携はる危險人物と或方面からは目さるゝに到りました。

■

この勞働者の讀書會は一週一片(四錢)の會費で、終ひに二千人の會員を算するに到りましたが、この時、小數の會員中に、無神論の出版物をしようと云ふ人々が出來、終ひに內輪揉めの結果、解散するのやむなき場合に立ち到りました、此時ロ氏は自ら進んで市の公會堂を借り受け、出來得可くばこの解散を防がんと、第二の講演を試みました「人々兄弟よ、勞働者同盟の會員諸氏よ」と云つて實に懇切な論理と、熱情の籠つた大演說を致しました「私は諸君が、華やかなる希望を抱いて、萬人の囑望の內に發會式を擧行した其時に、諸君と共ならむ事を約した、今日諸君が、此の難關に出で向ひ、解散の危險と、不人望の極に立つ時、諸君を見捨てる事は出來ぬ、何等か適當なる解決の途を見出し得ば幸福である故に今日再び全市の前に、諸君と進退を同うする事を示すのであると、云ふことを說き出したのでした。

然しロ氏のこの苦心にもかゝはらず、終ひに會は解散となりました、然し間もなく、不健全なる分子を除いて、再び、職工同盟の名の下に第二の會は結ばれました。ロ氏はこの會が勞働の文字を落した事を非常に殘念に思ひましたが然し會の內容が以前の會の漉し出されたもの、むしろ清められたものとして、之を喜び、自身も再び行つて助力する事を約しました。

一八五二年、此約は果されて、ロ氏は多年の蘊蓄を傾けて二回の講演をしました、其の題は「勞働階級に及ぼす詩の感化」と云つて、題からして一種の新鮮な空氣を漂はすものでした。

五

ロ氏はこの講演の序論に云つて居ます「今日の如く凡べての人心が、夏の埃りの如く、乾き切つて居る時に、我々の要求するものは、智を明かにする光でなく、心を濕す露ではあるまいか」又申します「詩は閑人の遊戯で、忙しき勞働者と何の關りあるか」と、然し眞の詩は、萬人の踏む可き人倫を、簡潔に麗はしく韻をふんで言ひ表したものである、勞働者は美の世界から排斥せられねばならぬか、詩は人心の無限への憧を表示するものではないか。

ロ氏は二回に渡つて此の講演をなし、最後に天然詩人ウォルズウォルスの講演を爲す可く、第一回を試み、第二回を腹案中、病ひを得て、三ケ月の休養の後、終ひに逝いたのであつた。

ブライトンの市民は、云ひやうもなく深き悲しみに打たれた、人々兄弟よ、の演說に集りし千五百の勞働會の人々は頭をたれて、其葬儀に列した、生前有ゆる迫害と誤解に苦しめられ、其纖弱な身體と戰つて、雄々しく凡べての人心を教導したロ氏の骸は、靜かに、其最後の憩みに移されました。

ロ氏の生涯を顧み、この深き印象を現さんとして筆なきを憾みます、我國に於ても、將さに勞働階級が、眞の我に覺醒せんとする今日、徒らに、物質的の惠を享有する階級に羨望の目を放つことなく、勞働の眞價と、人間の高貴に目醒めて立つ爲めに其魂に光を與ふる指導者の立たん事を俟つこと甚だ切なるものがあります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「トーチベアラー」を讀みて（五）

ガントレット恒子

「世界は明晰なる頭腦を要す」

ハント夫人に繼いで「科學的禁酒課」の課長として就任したデビス夫人は、ハント夫人に劣らぬ熱心で且つ有力なる課長として盡した、夫人は世界を廣く旅して、此アルコール問題に就ては、凡ゆる方面に於て研究をなした、合衆國は本より歐洲に於ける科學の大家の説を求め確實なる立説的材料を獲得した、ロンドンやストックホルムに開かれた、反アルコール大會に出席し、一九一一年にはヘーグに至り、自ら、學校を訪ねて、各國に於ける、學校と禁酒教育の關係等の調査をした、夫人の演說の一節に次の樣なのがあつた。

「夢みる事をせぬ國民は滅亡すると私は思ふ、自分は、ニウヨーク市、シカゴ市、セントルイ市等は勿論の事、英京ロンドン市、アイルランドのダブリン市、スコットランドのエデンバラ市、グラスゴー市の如き大都市の貧民窟を訪ね、兒童の狀態を調べた、私は彼等の元氣もなく、笑もなく、力のない顏を眺めて、救世軍のブース大將が「暗黑なる英國の一部」と題する書中に云はれた事に共鳴せずには居られなかつた、大將は「彼等氣の毒な子供は、此世の中に生をうけたと云ふよりは、寧ろ呪はれ出でたのである」と云はれたが實に其は本當である誰か彼等の當然持つて生れ出づべき人間としての權利、卽ち明晰なる頭腦、健康なる身體を彼等に拒む權利を有つて居るであらふ、世界中の凡ての富を積み重ねても此の彼等の受つゝある損害をつぐなふには足りないではないか。

而も彼等は又彼等の兩親のふみ來たりし間違つた道をふむ樣に出來た。弱い意志を有つて生れて來て居るではないか、白痴や病弱な子供を見る時、其後には、アルコールの魔の手が掛けられてあつた事を思ふて、戰慄せぬものがあるであらうか」

ハント夫人もデビス夫人も共に、禁酒教育を授くるに足る教員の養成に力を注がれた、夫人達は、中學小學は勿論、夜學校、講習會等を利用して此方面に活動した事を考へる時、彼等の不斷の骨折は、米國の國民禁酒會に於て充分酬はれた事を感謝せずには居られないのである。

後繼者

デビス夫人の昇天に由つて、カンサス市のミドルトン夫人が、其椅子を充たす事となつたが、夫人が宣傳部に入つて各州への遊說員となられた時、ボストン市のコラ、フランセス、スタダード孃が、其あとをうけられる事となつた。

禁酒運動のチャンピオン、ホブソン少佐

砲火の間を奮鬪する兵士の勇は、讃美すべきである、けれども目に見えぬ敵を相手に、道德的勇氣を以て、其主義主張に活る事は難事中の難事である。米西戰爭に於て、有名なる、サンチエゴー港封鎖の大業は、メリマック號の沈沒に由つて完成せられたのであるが、其大任に當つた、ホブソン海軍少佐は、米西戰爭の勇者として廣く知られて居る、然し彼は、彼のダイナマイト式の傳令に由つて、國內の小中學生に其名を熟知せらるゝに至つたのである、彼の傳令は、

「我等の愛する、合衆國は自由を標榜し、自由の國旗を世界にひるがへして居るではないか、然るに人間の靈肉共に其捕虜といふ恐しきアルコール大王は、我國民の自由を奪つて居るではないか、我國幾百萬の精靈が此酒魔の爲に、恥べき行爲の許に、滅亡に陷つて行きつゝあるのを拒む事が誰か出來やう、敵の前に汚さるゝを許さゞる「縞と星」の旗は、酒に由つて贖ひ難きまで汚されて居るのを、如何して傍觀する事が出來やう、自由の敵は酒に非ずして何であらふ」と云ふのであつた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

マーリン博士

ボストン大學總長マーリン博士は、就任後間もない時分に、ボストン市に開かれた、禁酒の大集會に臨んだ、此集會を祝さん爲に臨席した幾多の社會事業團體の代表者は、交る〳〵祝詞を述べた。最後に博士は起つて、次の樣に云つた。

「今まで祝詞を述べられた各團體の功績は顯著なものである然しながら、婦風會が各學校に於て禁酒を科學上より小國民、未來の國民に教へ込んだと云ふ事實は、實に偉大な功績である、私が曾て、カンサス州の大學に學生として學んで居つた時分、或日禁酒演說がある、而も其が婦人の演說であると云ふ廣告を耳にした。勿論其時代の男子は、婦人の演說と聞いて、聞く丈の價値を感じた者は皆無と云つても過言ではなかつた、然るに眼のあたり、中年の氣品の高い立派なウヰラード女史を見且つ、其雄大な理想と秩序ある計畫とを聞いた時、私共青年の心は動いた、愛國者を以て任ずる青年學生の血は湧いた、一絲亂れぬ論旨を以て、國家的禁酒は愛國者の本領であると、我々の愛國心に訴へられた時、我々は此尊い事業に加擔せざるを得なくなつた、爾來私は、常に此主義の許に立つた、カンサス州は此時以前から禁酒州であつたが、他の州から密輸入がある爲め苦しんで居つた其苦い經驗に由つて、全國的禁酒の必要を論じ、其爲め努力した事は、當然である、私は心から婦風會を愛し、之に敬意を表する者である」

我々婦風會も、彼の樣な有力にして、忠實な後援者に多大なる尊敬を拂ふのである。

チーバー博士

マサチユセツト州、サレム市のチーバー博士も亦禁酒戰の急先鋒である、博士は教會の牧師として熱心に救靈の妨害である飲酒の恐るべき事、此惡むべき習慣の原因である酒類の醸造は實に國家の仇である事を指摘して「ジャイルス酒造場の夢」と題した書を著し、市民の心に酒造の罪惡である事を說いた、そして其爲、氏は官憲に捕へられ、牢獄に三十日間、投ぜられた事さへあつた、然し其働きの結果は、著しく表れた、氏が永眠する數ヶ月前、ボストン市の或る教會で說教を終り講壇を下りて戶口に向ふ途中、一人の紳士に呼び止められた、其紳士は「先生私は今日は先生に、彼の「ジャイルス酒造場の夢」の話を書いて下さつた事を直接感謝する爲御面會に參りましたアノ御陰で私は終に此商賣の恐しさを考へる

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に至り、終に全然其を捨てるに至り、其上キリストの教を心から求め得るに至りました、實に先生の賜と厚く御禮を申ます」と眼には感謝の涙さへたゝえて懺悔した其紳士こそ實にジャイルス氏其人であつた。氏の熱心な努力はかくして立派に酬ひられたのである。

サリービー博士

サリービー博士は、ロンドン市の人で有名なる世界的科學者である、英國禁酒同盟會並に英國實業家禁酒同盟の副會頭である博士は「拾六年以前より私はアルコールを指して、人類的毒薬と呼んで居る、大抵他の毒薬は、人類全般に害を及すものではない、之を飲用する個人に害を與へるに止るものが多いが、アルコールに至つては決して、左様ではない、之を飲用する個人は申すまでもなく、其子孫にまで大害を及す、故に私は之を呼んで「人類的毒薬」と云ふのである」と云つて熱心に禁酒運動に盡されて居る。

リリアン、スチーブンス夫人

頭脳保護の大事業に偉大なる力となり、敵の恐となつた者の中に、スチーブンス夫人を數へる事を忘れる事は出來ない、夫人は一八七六年と云ふ早い時代から、我黨の勇士の一人と數へられて居つた、其年ニウゼルシー郡のニウワーク市に開かれた大會に、夫人は代員として初めて出席せられた、一八八〇年には擧げられて、記録出記補となり、數年後、記録出記に任ぜられた、後米國矯風會の會頭となり、ウキラード嬢について、困難なる事業の爲、奮闘された事は、本會の會員のみならず、米國民の腦裡に未だ新しく殘つて居る事實である。

ニール・ダウ將軍

米國に於ける最初の禁酒論提唱者の一人として、ニール・ダウ將軍は其大なる者である、一八三六年に氏は一婦人が夫の酒の爲に苦しむのを見て、同情に堪へず、婦人を伴ふて酒舗を訪ね、其婦人の夫には酒を賣つてくれるなと歎願した、酒舗の主人は怒聲を發して「自分は政府の保護の許に、此正當な商賣をするものである、自分は之に由つて生活の代を得て居るものではないか、何で人の干渉をうける必要があらふ」と叱り付けた、氏は之を聞いて「實に尤だ、君は政府の許可を得て居る、君は之が商賣である、よし然らば私は之を全く改めて新しき法律を作つて見せる」と答へた、玆に氏の禁酒

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の大戰爭が始つたのであつた、氏は理解ある一人の友人の助力を得て東奔西走、至る處に禁酒の集會を開き、禁酒の必要を説いた、當時メイン州には鐵道のしかれてある處が少くあつた故、氏と氏の友人とは、雪の道を幾十哩、幾百哩、と「ソり」に由つて旅した、其運動の結果は、メイン州が禁酒州となつた事である。一八五一年に氏は又禁酒州となつたメイン州の中を巡廻した、而して以前は、一杯であつた監獄や留置場が殆ど空である事を見て驚いたと云はれて居る、メイン州は、割合に貧しい州であつたが禁酒後の經濟狀態は一變して最も金力ある州の一として數へらるゝに至つたのを見ても、ダウ氏の功績を讃へずには居られないのではあるまいか、氏は九十三歳の長壽を保つた人であるけれども、三月二十日と云ふ氏の誕生日は矯風會の記念日の一つとして、萬國に記念されて居る。

ジヤン・ビー・ガーフ

有力な説教家として、ジヤン・ビー・ガーフの名は、矯風事業に携る者の耳には、はつきりと記憶せられて居るのである、氏と其妻とは共に、ウヰラード女史の親友であつて、常に此主義の爲、其熱誠を以て援助してくれた偉い後援者である事を忘れてはならない、

「私は聲の續く限りは酒害を説き續け、聲の力の弱つた時は小聲でゝも尙、之を繼けないでは置かない、若し全く聲のなくなつた時は、手眞似でゝも私の主義を主張する」

と常に口にして居た氏の熱心は驚く許りであつた、氏は殆ど七十歳の老齡を保つたのであつたが、少くとも、禁酒演説をなせし事、九千度以上であつて、其聽衆は九百萬の多きに上り四十五萬哩の旅行をなしたのであつた、氏の最後の説教の一句は、「靑年諸君よ、諸君は諸君の全生涯の記録を、純潔なものとなし得る樣努力せざる可からず」であつた。

リンゼー判事

少年審判（デンバー市）の子供の判事さんとの親しみある稱號を有つた、リンゼー判事は亦、矯風事業の有力な同情者と云ふより、寧ろ信仰者であつた、矯風會は亦氏の仕事には少からざる便宜と助力を種々な點に於て與へた、氏は一大會の席上で、

「毎年審判所に連れて來られる男女の少年の數は、十萬人以上であるが、我々は此等の可憐な若木の芽を傷けぬ事に努めて居つて、只外部に表れた彼等の惡い行爲のみに由つて

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

導くのではなく、其原因を究めて彼を新しい道に目指さしむる樣に力を盡す結果は、九割五分は善良な生活へ向つてすゝみ延び樣とする、傾向を以て出て行く事は、我々に取つて實に喜びである」と云はれた。

大家の禁酒運動に對する意見

エドワルト七世陛下に侍臣として仕へた、バーロー卿は、「我々現代人が、未來の國民に酒害を致へ、其恐るべき結果は二三代までも其子孫に及ぼす事實を、科學的に敎へ込む事が出來るなれば、我々の愛する子供等は本より其次の時代の國民も必ず禁酒は、迷信でもなく、偏見でもなく、國家を誤まる害物を防ぐ唯一の良法であつた事を、理解し、我々に感謝するであらふ」と云はれた。

グラドストンは、「飲は人類の大敵である、其人類に及ぼす害や戰爭と疫病と、飢饉との害を併合せしものよりも、遙か恐しく大きなものである」と云ひ

リツチヤドソン卿は「酒の販賣は、疾病の販賣であり、貧困と發狂の販賣である、酒を買ふものは、犯罪を買ひ、死を買ふものである」と云つた。

白亞館と酒

禁酒の歷史を讀む人達は、確に、グランド將軍は、世界の何處を旅行しても、如何なる處に招かれても絕對禁酒を標榜して、たとへ王者の宴會であつても、貴顯紳士のテーブルであつても、決して杯を口にせなかつたと云ふ、心强い事實を讀むに相違ない、そして白亞館の主婦として大統領夫人としてのグランド夫人は、新年の祝賀會に於てさへ、其テーブルから、全然酒類を排けたばかりでなく、夫人の感化に由つて閣僚の家からも之を遠ざけさせたと云はれて居る。

ヘース大統領夫人も、夫の許可を得て、自分が酒杯を手にせなかつたのみならず、白亞館に於ける、公式の饗宴に於ても決して酒を用ひさせなかつた、ヘース夫人の勇敢なる、行爲は矯風事業の上に大きな光と望を投げた、米國婦人矯風會は、夫人に對する好意を表さん爲め、夫人の肖像畫を捧呈した。畫家はニウヨークの美術學校長、デビド、ハンチングトン氏であつた、高さ十呎、幅七呎の大肖像畫を收むる額緣はシンシナの美術學校の學生の手に由つて、彫刻された、美を盡したものであつた、其は一八八一年の春、公式の式場に於て捧呈された、ウキラード女史は、會を代表して、捧呈の

393

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

辭を述べた「昔より今日まで、藝術と酒は附き物として、詩に唱はれ、畫に、彫刻に、表はされて來た、美人と酒、音樂と酒、繪畫と酒は、世人の口より離れ難いものと認められて來た今日、之の舊思想を打破するには、非凡な決心と、勇氣を要する事は、勿論である、今我々は、ヘース大統領夫人に於て其勇者を見出す事を、我々米國婦人として、どうして見逃がす事が出來やう、夫人は實に、天よりの聲を聞き、之に服從せし、忠實な神の僕である、夫人こそ、米國の最高交際場裡の、眞の女王である」大統領クリーブランドの妹、エリサベス、クリーブランドも、熱心な、禁酒家であつて、決して大統領官邸に酒の入るを許さなかつた。

日曜學校禁酒

一九〇八年の大會に於て日曜學校と禁酒教材に關する、左の話が、フオスター、スチーブンス夫人の口より、紹介せられた。

二三年前までは、萬國日曜學校協會は、二千六百萬の生徒の爲め禁酒課の設を有つて居らなかつた、一人の小い少女の忠實なる働に由つて、此課が設けられたばかりでなく、日曜學校の教師は凡て、禁酒禁煙を主張する者を採用する事となつた」

或日協會へ一少女からコンナ手紙が來た。

「私は鑛山に住んで居る一少女です、十一歳の時神を信じてメソデスト教會の會員となりました、私共の鑛山町には酒店が十軒ありますが、日曜學校はタッタ一つです、而かも女の會員は私が只一人です、日曜日毎に教會から一人の學生が來て日曜學校を開きますが、私は一教師として、オルガニストとして、小使として働いて居ります、私は若い鑛夫が酒店へ行つて、金を費ひ身を損つて行くのを見て居られません、どうぞ協會から、禁酒教材を送つて下さいませんか御願ひです」之を受取つた協會の役員は圖書室中を、隅なく探しても何一つ適當した書物を見出さなかつたので私に其書を書き送つて、是非何か送つてくれと頼んで來た、私は早速書類を持つて、此大膽な、日曜學校教師兼音樂師兼小使を見に出掛けて行つた、驚いた事には、其兼任教師は、タッタ十四歳のまだ短い衣服を着て居る少女であつた荒野に一輪咲き出でた、此美しい野生の花は、其香を遠く放つて、萬國日曜學校に、改めて禁酒課を設けさせるに至つた、實に偉大な仕事ではないか、神は、をさなごを通して、神の國の奧義を我々に教へ給ふのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

聖者の勇氣

ガントレット恒子

八月

一日

ローマを去らんとして、其途上に主を見たる、ペテロは、いぶかりつゝ問ふた、「主よ何處へ行き給ふや」と、主は靜かに、和かに答へ給ふた、「ペテロよ、我は我損を却て喜となす、我は汝に代りて十字架を負はんとて行く」と。

クウォーバデス

二日

暗い／＼蔭は、束の間の存在に過ぎない、蔭の過ぎて行つた後に輝き出づる太陽、其光は以前にも増して美しい、光は生命だもの、光の源である太陽の前には、蔭は平伏して仕舞ふのである。

オクゼナム

三日

うなだれ、涙は瀧と流るゝ時、我等のいとしき者を死の神にゆだねる時、天の聖者は、聲を合せて、「地の束縛より解き放たれたる靈魂よ、主と共に復活の喜に入れ」と、唱ふ。

オクゼナム

四日

シト／＼と降る雨、冷い雨、鬱陶しい雨、山もぬれゝば、谷もぬれる、けれど、冷い雨を深く／＼吸込んだ地には春の來た時、靑い草が生え出て、木々の花は色深く咲く。

クリスチン、ロゼチー

五日

百合の枝は滑かに私の手に觸れる、けれども、私はやつぱりバラが好きだ、刺があつても、刺があつてもバラは花の女

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

王だもの。

クリスチン、ロゼチー

六日

人生の行路が進み難く見ゆる時、負へる重荷が愈々重くなつて、死の路が遙か生の路に、まさつてなつかしげに見ゆる時、其時こそ、我々が強く生きん爲の努力を最も要する時である。

ブラウン卿

七日

想愛は招かずして來る、而かも彼は澁面作る者を選んで其友とする、彼を防ぐ唯一の法は、希望と感謝を、充分に蓄る事だ。

八日

無數のダイヤモンドは稀に見出さるゝものである、けれども困難や、苦痛を全く知らずして過ぎる人は之よりも稀である、否皆無である。

九日

私達の一生は餘り短い、そして、爲すべき仕事は、多きに過ぎる、今日ある間に力の限り働き、聲の限り唱はふではないか、充實した生涯に取て死は、恐怖ではない、悲しみではない、眞の勝利だ、靜な休息だ。

モーズムダー

十日

度り難い天の御座の下に、輝く空の星は、幾つあつても、皆一ツ／＼ひかる、人間も幾人あつても、皆一人ヅヽ、其歩を續けねばならぬ、此兩者の眞の價値をはかり知る者は、全智の神のみである。

佛諺

十一日

つまづき倒れて傷ついた者に、說教するな、先づ手を貸して、助け起し、其傷を手當した後、說教しても遲くはない。

十二日

私共の負うべき重荷が、重いからと云つて、手を束ねて眺めて居るな、人生の重荷は、下に置けば置く程、其重量を增して重くなる。

十三日

活ける宗教、廣く深く愛するの愛、何處にでも、何時でも働き得る信仰、之等は、聖者の有ちものである。

ハンチングトン

十四日

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人生の美を傷けるものは苦痛でもなく、艱難でもない、嫉妬、恨みは、最も恐しい美の破壊者である。　コリッジ

十五日

時を待て、亂れた絲のもつれの如き、人生の難事も十中の八九までは、時が解決してくれる。　クレイン

十六日

時は最も賢い、最も上手な醫者である、時が與へる最上の藥は、只靜かに忍耐して待つ事である。　クレイン

十七日

行く路に、困難が横つて居るのを見て、退く事は、愚かな仕事ではないか、人生は只前へ前へと進む、一本路である、さもなければ、神は、人間の眼を頭の前後に附けて置いた筈だと、私は思ふ。　ユーゴー

十八日

湊に入り來る、私の船が、來るものも來るものも難破の姿で、帆は破れ、マストが折れて居ても、決て私は神を疑はない、凡ての事は、神を信ずる者のために、働きて、益をなすと私は信ずるから。　無名氏

十九日

愚痴のない生活を送らうと思ふなら、凡ての出來事の中に神の聖手を認め、神の手の中に、凡ての出來ごとを托ぬるにある。　マシユー、ヘンリー

二十日

一日の終りに、私共に疲れを、おぼえさせるのは、仕事の多過ぎたのではなく、爲すべかりし仕事を、しのこしたと云ふ悔恨の念である、一言の慰の言葉、一本の友情の手紙、一枝の美しい花、此等が、忘れて言ひのこされ、しのこされた時、私共は、がつかりした感におそはれる。　マグレツ、サングスタ

二十一日

嵐のあとの、なぎは、本當に靜である、悲しみのない處に眞の安息はなく、戰のない處に本當の平和はない。　ヘレン、コーン

二十二日

私の持つてた心配は、きのふみんな捨てました、芝生の上に吹く風に、木の葉の音に、小ながれに、小鳥の歌に、蟲の音に、私はみんな捨てました。　ミセス、ブラウニング

二十三日

萬事意の如く成ると云つて、笑顏を作ることは、どんな臆病な人々でも出來る、失意の時も、逆境にあつても笑ひ得る

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人が、眞の勇者である。　ウキルカクス

二十四日

路は嶮く、行く手は遠く、汝の力に限りありとも、主は「子よ强かれ」と、のたまふ。

夜は暗く、墓は海を待つとも、恐るゝなかれ、只進め主は「子よ强かれ」と、のたまふ。　ブリグマン

二十五日

忍びて悦び、なやみに堪へ、聖徒の貧しきを、にぎはし、旅人を、ねむごろにせよ。　ロマ書、十二、十二

二十六日

百合は、しほれた、眞紅のばらは地に落ちた、秋風は吹いて、冬の雪を誘ふた、土の上に綠は姿を消して、黒い土と化した、アヽ淋しい此景色と人は云ふ、けれど私は、一人嬉しい、死は生に限りなく追ひ付けるものではないから、冬の來るのが早ければ、其だけ春も早く來るから。

クリスチーン、ロゼチー

二十七日

たとへ我、死のかげの谷を歩むとも、禍害をおそれじなんぢ、われと偕に、いませばなり、汝の笞、汝の杖われをなぐさむ。

詩篇廿三―四

二十八日

己が目は、うれへによりておとろふ、靈魂も身もまた、おとろへぬ、わが生命は、かなしみによりて、消えゆき、わが年華はなげきによりて、消えゆけばなり……されどエホバよ我なんぢに、よりたのめりわが時は凡て汝のみ手にあり……なんぢの僕の上に、なんぢの御顔をかゞやかせ給へ。

詩篇三一―九

二十九日

富めるにも、貧しきにも、幸福にも、失意にも、謹しみて主の御まへに跪き、主の御聲に耳を傾けよ、かくする時、汝は必ず勝利にも、失敗にも紳士たることを得べし。

サカリー

三十日

大浪に海は荒れ狂ふた、雨は篠をついて降つた、空は黒布を覆ふた樣で、船は小葉の樣にゆれた、甲板に顔を出した、一人の婦は、「船長よ、雨は、はれやうか、風は、ながふか」と問ふた、船長の答は、只「當然の事よ」の一言であつた。

三十一日

人間を救に導くものは、宗教が教うる教理ではない、教理に適ふ、行爲である。　リツトン卿

時事

うすものゝ美

昔は富裕な家の子供にのみ樂しまれたうすものも今は大抵の人々に用ひられるやうになつた。まぶしいやうな烈日の外光を日傘で斜にさけていそ〳〵と歩く街頭の美女、夕暮の銀座に散策する少女、打水の縁先にゆるやかにうちは使ふ婦女、いづれものびやかな解放された感じを受ける。夏だけは日本の女性も自由にすが〳〵しい氣持ちを心ゆく迄たのしむことが出來るやうな氣がする。只、うすものゝ美と趣味とそれから生ずるえ言はぬ品位とは、着る人の人柄にもよるし、柄や色合の選擇にもよる。同じ寶石でもその飾らるゝ指先の如何によつて品よくもなり、無くもがなといふ様にもなるのと同じことであらう。うすものは又殊に下着の選擇に心を用ひらるることが大切である。下着の如何によつて挑發的にもなり醜くもなる、警視廳あたりで心配されるのもその邊の注意の足りない婦人達が時にあるからだらう。然し、二三年前よりは一般にうすものの用ひ方に餘程注意を拂ふ人が多くなつたやうに思ふ。兎まれ、衣服のことにまで立ち入つてお役人の干渉を受けるやうになつては婦人としての誇りを踏みつけにされるもので、衣服の趣味はよきほどに持つてゐたいものである。

人生の迷路

踏み迷つたが最後なか〳〵出道の見付からないのが男女の性的關係である。戀愛に生きる而も聰明であるといふことは可なりに困難なことである。けれ共、戀愛の仕方は微妙な訓練と教育によつて餘程聰明にあり得るものである。戀愛を罪惡と考へたり、男女關係とさへいへば直に醜關係の如く考へることの愚かさはこゝに繰返す必要もあるまい、二つの人格が互に牽引する宗教的最高の境地こそ心して培ふべきではあるまいか、眞の戀愛はやがて二つの人格をして喜んで如何なる苦闘をも辭せざるの勇氣を持ち、社會生活に參加して、そこに人間として又社會人としての責任と喜びを分つやうにする。戀愛に耽溺し感情の遊戯をする、たゞそれをのみ戀愛と心得るやうな輩は未だ純眞の戀愛を體得しないものである、まして戀愛がもたらす種々の苦痛を避けるため死を急ぐといふことは愛の甘露のみを喫つて苦杯をさける卑怯者である。などと言へば如何にも冷酷に聞えるか知れないけれども、斯くいふ私にも所謂情死者の法悦感を想像出來ないわけではない、只あまりに情死事件の多いのに驚かされる。結婚者の情死事件など、殊に世の母親達の心などのやうにかき亂すことであらう。

今私は、特にこゝで、母親の少女に對する性的教育の一般にかけてゐることを無遠慮に遺憾とする。これは日本のお母さん達丈ではない、世界中のお母さん達は、まだ〳〵性教育を等閑にしてゐる。性教育は六つ七つ位の時から始めてよい、殊に十四五になつたならば生理的に教へて置く必要がある。兎角過ちは無智から起る。無智は何よりも恐るべきものである。

（エス・エム・）

海外

紐育の婦人市參事會員

紐育の第十五街といへば、一名シルク、ストッキング、ディスツリクトで通つてゐる所、そこからジエー、ティー・プラットといふ夫人が市參事會員の補缺として選擧されました。それは選擧されたも同然で、夫人は、紐育市に於ての最初の婦人市參事會員です。夫人は、同市の政治の向上經濟のために熱誠を捧げて盡すといふことを誓つて居ます。アメリカでも漸く政治の實際にふれて婦人の働く機會が與へられるやうになりました。

オーストラリアでの選擧

去る五月西部オーストラリアでの選擧に、珍らしく、未だ卅そこ〳〵のメー・ホルマン女史が議員に當選しました。女史は勞働婦人で鑛山選擧區から立つた人です、お父さんは會て議員であり、又勞働局の役人でもありました、お父さんの歿後、女史は直に職業に就き中央勞働機關である産業會館にタイピストとして又書記として働いて今日に至つてゐる元氣な人です。同地方に於ける第二番目の婦人議員です。

進んで來たメキシコ婦人

先頃メキシコ視察の旅行から歸米した、ハールハウスのジエーン・アダムス女史は、メキシコの婦人が近頃非常に發達して、殊に、婦人參政權を認めてゐる二つの州で特別婦人の向上を見てゐると言つてゐる、又メキシコ市の國立大學の學生六千人中千人は女性であるとの話、何處の婦人達も非常な勢ひで進歩しつゝある。

禁酒圖書部

米國アイオワ州でも有名なアイオワ圖書館では、今度、酒精の人體に及ぼす影響を書いたもの、禁酒法の書き拔き、公民權に關する小冊子などを一括して禁酒に關する部を設置して、學校、役所、教會等の活動のために特に便利を計ることになりました。

南米の婦人

南米の婦人社會運動は、アルゼンチイナ、ウルグアイ、チリー等の國々に於て殊に最近著しく發達して來ました。從來、文字通りに男子ばかりで專有されてゐた權利と特權とを婦人自身の爲に獲得しようとする努力が、自然社會的の團體運動となるのであつて、この運動と共に、禁酒運動の方面も次第に勢力を得つゝある模樣です。

勞働學校

米國の全國婦人産業聯盟では此秋特に勞働問題及び勞働運動統率の方法等に就ての第十二回女子講習會を開くことになつた。六人から十人位迄奬學金も出ることであり、勞働諸團體から有爲の勞働婦人が出席するのである。現在勞働運動の前線に立つて最も有力な活動をしてゐる婦人達は何れも此勞働學校によつて教育されたものであるといふ。

アスター夫人

英國に於ける初代婦人代議士として、又淑德の聞え高いアスター子爵夫人の光榮ある議會入りを記念する爲の肖像畫は議院内に誇らく揭げられてゐたが、存命中の人の肖像畫を飾るといふことは規則に反するとあつて終に取り降されたが、今それはベッドフォード大學のオリバーホールに掲げられてゐる。夫人は又少年禁酒のために盡された人として私共は記憶したい。

（エス・エム・）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

母のたまもの

財務部　小泉たね

私共のお祖母様であり、誇りであり、冠りである前會頭は天上にゆかれまして一しほ母なつかしく現會頭の上に榮えあれ、徳が上に重き御責の幾分を子として會員として負はばやと足らぬながらも念じつゝ去る七月の理事會に參りました。折柄にこやかな會頭は小さき狀袋に金拾圓參拾錢也財務部へ寄附として御事おほき中から毎日の節約より生れしものを下さいました。何といふ嬉しさ何と云ふ辱なさ七千餘の我會員が此母の心持ちしならば財務部の強さ幾何ぞとこみ上る程に感じさせられました。財務部が強く堅く豐になれば社會部も風俗部も何部も層一層の働きが出來る。今や我會の働き、人材に於て戰術に於て遺憾なく發展しつゝあります。足らぬものは資金です、財務の貧弱です、全支部の方々同志の姉妹よ、此部の爲に層一層御こゝろを傾けらるゝやう祈つて止みませぬ。

因に云ふ大阪支部の誕生献金は其實行に入りました、チエーンストーアは着々具體化して參ります。更に矢島前會頭の御臨終より最後の凱旋式の光景等全部繪はがきにして皆様御追悼の資に提供したいと目下準備いたして居ります、ぜひ御用ひ下さいませ。

矢島楫子記念號

故矢島先生の殆んど一世紀にわたる長い生涯は、誠に波瀾曲折奮鬪の尊い一生でありました。私共は色々な方面から、色々な異つた角度から先生を見ることが出來ます。さうして、先生の生涯は靜かに考ふる時、力強く畫かれた文字となつて、教へとなつて私共の行く道の指導となり勵ましとなります。九月號は特に先生の記念號とします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歪められた微笑

宮添 綠

その室に入つた時から、私の注意の焦點は壁間に掲げられた老翁の肖像畫に注がれてゐた。眞白な頭髪と、豐かな顎鬚にうづまつた畫顏は一寸見ると晩年のトルストイを髣髴させるやうにも見えるが、あの戰爭と平和の作家に見るやうな陰鬱な影は何處にも見出せなかつた。額にある線も、小鼻から兩の口角にかけての所謂フエータル、ラインと云はれる線にも溢れるやうな心の和ごやかさと、安けさとが滿ち〳〵てゐた。

（宗教家かな）さう私は思ひながら、その日一緒に招待されてゐて、その家とは私より親しい知合でもある友人長井に、「一體あの肖像畫は誰だい」と尋ねた。長井も知らなかつた。で、その家の主人たるH夫人が出て來られた時、長井は夫人に私の意を傳へて尋ねてくれた。

「まあ、友田さん、貴方のやうな方がこの肖像を御存じないのですか。誰だか當てゝ御覧なさいな。或る米國の作家ですよ」

H夫人はまるで敵討の相手を知らない若武者をでもたしなめられるやうな權幕で云はれた。

「困りましたな」私は困つたらしい笑ひをした。（ローエルかな、ホイットマンぢやない、いやオニイルにしては老けすぎてる……）ほんとに私は困つた。そこで、私は富籤をでも引くやうな情けない顏をして答へた。「エマースンですか」

「いゝえ、違いますよ」一寸、微笑されて、「ロングフエロウですよ」

「なあんだ！ロングフエロウか。だが、ロングフエロウにも御無沙汰だな。近頃は名前さへ思ひ出さない位だ。實際、ロング

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

フエロウより、ボウドレエルの方が僕達には新鮮だからなあ！ロングフエロウは僕達にはもう魅力がない。……」

H夫人はさう云はれると、悪戯らしい笑ひを私の方に送つて、何か取りに立たれた。

と、突然、長井は私に云ひかけた。

「友田さんみたいな、ものを書く人がロングフエロウを知らないなんて大にいけないね」

私は、唐突なこの言葉の意味をはつきりつかめなかつた。

「だつて、あまりお目にかゝらない肖像だからね。それに詩人のはあまり知らないよ」

だが、私は長井の云はんとする眞意を解してはゐないらしかつた。長井は更に續けた。

「詩人だからつて知らないと云ふ法はない。苟くも文藝に携はる程の人でロングフエロウを知らないなんて！」

（ああ、さうか、それですつかり分つた！）

長井はさつきから、私がこの著名詩人の面影を勉强して暗誦して置かなかつたことを責めてゐたのだつた。

（まあ、何と云ふ情ないことだらう。文藝をたしなむものが古往今來の有名作家の著作だけでなく、その肖像まで知つてゐなければならぬとしたら。彼は一體幾何の時間を持つてゐたら良いのだらう）

だが、世間人はどんなにその著作より、その作者の風貌に接したがつてゐることであらう。いや、恐らくは作者の風貌だけ知つてゐて、その著作は知らないかもしれない。

（さう云へば、私の女友達と、私とのこんな不思議な會話も思ひ出す。その女は、ぴち〳〵はねる沙魚のやうに新時代の感じのする女だつたが）

僕　芥川龍之介の南京の基督をお讀みになりましたか。

彼女　い〻え、でも芥川はい〻わねえ。あの畸形的な所が良いわ。

僕　（畸形的なとは良い形容だと感心しつ〻）さうです。僕もさう思ひますよ。芥川の作品にはどこかに畸形的美がありますね。外に何をお讀みになつたの。

彼女　別に讀みませんわ。でも、あの顔が、い〻ぢやありませんか。畸形的美が而も江戸前ですもの、佐藤春夫の顔も畸形的美があるけれど、重苦しすぎるわ、芥川の江戸前畸形美にはかなはないわね。

（作品の批評ではなかつたのである）

僕　（啞然！）

（さうだ、これこそ新時代の傾向的所產だ！）

さて、吾が愛すべき新時代、長井はと云ふに、彼は私の甘酸い、深奥な微苦笑にも拘らず、昂然として繰返すのであつた。

「苟くも、文藝に携はる程の人がロングフエロウの顔も知らないなんて……」

强いて、ウイツトめいた蛇足をつけ加ふるならば、讀者諸君よ、私は次の數句をつけ加へても良い。

その時、長井の顔は新時代を象徵する白い鳩のやうに、ほがらかに晴れ渡つてゐた。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

禁酒

野崎英子
(十四歳)

先日、今治の吉田鶴子氏から守屋東氏に可なり長い御手紙が參りました。其中に、御近所の英子さんといふお孃さんのことが紹介してありました。英子さんのお父樣は以前中學校の校長でいらつしやいました。英子さんは七人目の末つ子で、お兄樣が三人にお姉樣が三人ある幸福な方です、けれ共、英子さん自身は小學校の六年生にならうといふ時に重病にかゝつて、それから二年ばかり學校の方は休んで、今ではおうちで靜養してゐる方です。英子さんは學校では優等ばかりだつたさうです。英子さんは童話や童謠を作ることが好きで、何か書けると、吉田のをばさまに讀んでお聞かせするのださうです。吉田のをばさまは、英子さんに、ある時「今度は禁酒のお話を書いてごらんなさい」と仰つた、ところが四五日すると英子さんが、早速をばさまの所へ「禁酒」といふ題のものを持つてゐらしつた、それがこゝに掲げる一文です。

吉田氏からは少年新報にと守屋氏のところへ送られたのですが、四號活字で四頁物なのですから、婦人新報にのせて下さいとのお話でした。皆さんと御一緒に讀みませう。(記者)

賑かに噂ひはやしてゐる料理屋から、ひよろ、ひよろ、しながら出て來た一人の青年があつた。町の人々は、何故か此の青年を見ると、いやな顔をしてせつせつと歩き出すのであつた。彼れは此所から少し行つた所にある、小さいみすぼらしい小間物屋の倅である。家には六十路に近い母親と十四になつたお春と云ふ妹との三人暮しである。働手のないこの家では、彼れを杖とも柱とも思つてゐるのであるのに、働くどころか酒ばかり飲んでゐるなまくら者で、母親は心配の爲にやせ衰へ、顔には何時も淋しさうな影が消つてゐる。少しの貯へはあつたけれども大方兄の爲に使ひ果されてしまつて、此の頃はその日その日の身すぎにも困る樣になつたので、小さい家に引うつり、少しの資本で小間物屋を始めたのである。母は幾度も幾度も意見をしてみたが、はてはその度毎に「うるさい〳〵」と云つて、はては母に手を掛ける事さへもあつた。それでも何時か目のさめる時もくるであらうと、はかない願を心頼にするより外はなかつた。

お春は友達の樣に身を飾る事も出來なかつたが、彼の女はそんな事は少しも苦にしないで唯この墮落した兄が一日も早く善人にたちかへらん事ばかりを日夜祈つてゐた。夜は勉强しながら店番をし、母親は奧の間の薄暗い燈火の下で近所の縫物をしてゐる。お春はお客に愛想がよいので、兄の濟の評判の惡いのと反對に、皆彼の女を褒めてゐた。あいしてゐた。

或日お春は、二三軒のかけを集めに行き、僅かの金を貰つて來て母に渡してゐる所へ、折惡しく兄が歸つて來て「己れにそれをかせ酒の一合位のめるわい」と云ひながら渡すまいとするお春をけ倒し諫める母親を口ぎたなく罵つて出て行つてしまつた。母とお春とは、手を取合つて怒りと失望とに泣き沈んだ。彼の女も今は母を慰める言葉がなかつた。方々の料理屋や酒屋から兄の借金を取りに來られる度に、母は血を吐く思で暫時の猶豫を請ふのであつた。兄は放蕩をするばかりではなく、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

酒に醉ふと人に喧嘩を仕掛けたり、亂暴をしたりする惡い癖があるので、人々は此方に理窟があつても、なる丈さけて相手にせず、子供に至る迄彼れを蛇の樣にきらつてゐた。母は世間にあはす顏がないとて外へも出ず、何時も父の位牌の前に歎きと苦痛とに惱む胸を抱いて默然として坐つてゐるのであつた。お粂は母の心を察して、知らず識らず熱い淚が流れた。清に母や妹のこの惱を知るや知らずや、又しても「さあ金を出せ、ない事があるものか」と近所隣へも聞える樣に喚鳴り散らして、母の意見もいひ譯も耳にも入れず少しの寶滑をかきさらつては出て行くのである。

或夏の夜彼れは活動寫眞へ仲間の不良青年等と共に觀覽料も拂はず飛びこんで、くだらぬ馬鹿批評をしてさわぐので、一人の勞働者らしい男が癪にさはつて「馬鹿野郎つまみ出すぞ」と喚鳴つたので、清は忽ち彼れに喧嘩を吹きかけていきり立つた相手は遠方の人と見えて不良青年の清を知らなかつた。然も自分の方に理窟があるので慄へる唇で相手の不法を罵りつゝ、力をこめた右手の拳を上げて清を擲り付けた。清は「何をさらす」と云ひざま、懷にかくしてゐた匕首を引拔いて相手にきつてかゝつた。場中は忽ち總立ちとなつて騷ぎたち、寫眞どころではなかつた。そして一同はそば杖をくつてはと、われ先にとにげ出した。その時一人の辯士がかけつけてとりしづめようとした。すると、激昂した清は、くるりと振返るやいなや、理不盡にも辯士へきりつけたので顏は紅にそまり傷口からはどす黑い血がどく／＼と流れ出ました。

清は刑務所に八ケ月苦しまねればならぬ情ない身となつた。町內の人はよいざまだ、これで少しはこりるだらうと皆氣味よがつて同情するものは唯の一人もなかつた。然し母の心としては、惡い子供程猶可愛もので、日夜悲歎にくれてゐた。彼れのゐないあとは靜かであつた。然し母は每日沈んでゐた。近處からおいしいものなど貰ふと、これを清に食べさせたい、あれも清に食べさせたいと口癖の樣に言つてゐた。母は今度清が歸つたら屹度眞面目になつてゐるだらうと、あてにならない望をあてにしてゐた。八ケ月の後彼れは髮をぼうぼうとはやし、青い顏をして歸つて來た。母は喜こんでこれをいたはり慰めてやつた。歸つた一日二日はどうやら外へも出ず、おとなしくしてゐたので、母はいよ／＼眞人間になつたものと、ひそかに喜こんでゐたが、それもつかのま或夜彼れは又外に出て醉つて歸つて來た。その後も酒氣を帶びない日とてはなかつた。

「あゝ眞人間になつたと思つたのは自分のあやまりであつた。もう神佛にもみはなされたのか」と母は今更の樣に歎き悲しんだ。或彌生の夜花見に行く人々で門外は賑であつた。もげ節で安來節を喚鳴りながら行く者もあれば流行の籠の鳥を歌ひながら行くものもある、公園の櫻は、咲きも殘らず散りも始めず今を盛りと咲きほこり、枝々には美しい雪洞がともされてゐる。清の頭の蟲はこんな時にぢつとしてゐる樣なおとなしいものではなかつた。うかれた人々を見ると早速家を飛出して、角の仕度屋で六七合の酒をひつかけ、ひよろ／＼と人込の中へ這入つていつた。主婦は尖がつた目でその後姿を見送つた。彼れ

は人々につきあたりながら二三町行つた時はもう醉がまはつたのか、ぐど〳〵云ひ始めた。その時彼れは自分のすぐ側を歩いてゐる立派な紳士にいきなりつきあたり、その手をにぎつて「さあ君飲みに行かう行かう」とせがみ立てた。

紳士は初めは驚いた樣子であつたが、「あゝこれが不良青年の清だな」とさとると、急になれ〳〵しく「おゝさあ飲みに行かう行かう」と云つて何事も逆らはずいたはりながら或教會に連れこんで、一室へみちびいた。紳士はこの教會の牧師であつた。清はそこへ來ると、もう前後も忘れて大の字になつて眠つてしまつた。牧師は青年の體へ毛布をかけてやると、そこへひざまづいて、彼れの爲に祈りをさゝげた。それから幾時間かたつたであらう。彼れが目をさまして見ると、自分は見し知らぬ家にねてゐて、今まで身につけた事のない美しい毛布が體にかけてある。キヨロ〳〵あたりを見廻してゐると、「お目がさめましたか」と云ふおごそかな聲がしたので、一層驚いて頭をあげて見ると、胸に十字架をかけたやさしさうな人が坐つてゐる。彼れは何が何やらさつぱりわからなくなつて家を出た時からの事を朧氣ながら心にたどつてみた。牧師はこつぷに茶をついですゝめた。そして暫くすると、悔い改めるのは今であると云ふ事をぼつぼつと話し始めた。彼れは今迄耳も傾けた事のないキリストの話を聞いて感激し、今迄鈍く光つてゐた目には何時しか熱い〳〵涙が宿つてゐた。今彼れの心は美しい本心によみがへつたのである。そして牧師と共に祈をさゝげた。

此の事を知つた母親とお孫との喜びはどんなであつたでせう。牧師はそれから一週間の間毎日彼れの家を訪づれて酒のがいと人格のたふとさとを諄々と、ときゝかせたので彼れも今はまつたくその非行を悔いて、母親や妹に今までの罪を心の底からわびた。それから數ヶ月後のばんさんに親子三人そろつて洗禮を受けた者があつた。それは母親と兄妹とであつたが、兄の罪の告白は大いに人の心を動かすものがあつた。それは云ふまでもなく彼の清であつた。

本部日誌抄

六月

▽十二日(金)午前小崎會頭來會、午後より日向の平和幼稚園にて松宮しん子姉講演せらる、この日久布白幹事東北地方へ講演旅行に出發、川崎貞子嬢同道

▽十四日(日)矢島先生突如重態に陷らる

▽十五日(月)矢島先生依然重態持續に就き方方へ電話及電報にて通知を發すこの夕長くし皇后陛下より矢島先生へ御見舞として御菓子及鶏卵鶏卵を下賜さる

▽十六日(火)昨夜一時十分矢島先生永眠せらる、早朝久布白幹事東北旅行より歸京、見舞客にて混雜を極む

▽十七日(水)見舞客引きもきらず、在東京全會員及各關係者へ通知を出す、約八百通今夜納棺式、司會者川島牧師、この日故先生の生前の功績により特に從五位の位記を賜ふ

▽十八日(木)近親者の爲めの告別式をなす追悼の客絶えず混雜を極む五時頃火葬場へ

▽廿四日(水)吳より十時姉、神戸より渡邊姉來會、弔電、弔辭、引きもきらず

▽廿六日(金)午前九時頃より事務のもの及役

胸は高鳴る

しづえ

北半球の
幾千哩に亘つてそびえてゐた
あの眼に見えぬ暗黒の障壁、
それが今全く打ち砕かれた。

さあ！
行かう！　モスコーへ、
レニングラードへ、
ベルリンへ、
フローレンスへ、
そして、
あのなつかしの都ヴイエナへ。

なんといふ香ぐはしい明るさだらう！
ほんとに、世界が明るくなつた。
あの、緑に輝く氷の海に、
雪に輝く千里の原野に、
峠厳な北方の光が射す。
あの壮大な教会堂によつて、
村ありとは知り得るやうな、
あの點々とした寒村の小屋に、
のどかな合圖の鐘の音が、
平和に、悠暢に響く時が來た。
無邪氣な子供達、
質朴な村の人々！
思出はいとなつかしい。

遙かな地平線！
涯しなくはるかな地平線が、
淡紅色に覺めて行く時、
旅人の驅る馬橇が、
一點！
ステイションを目がけて、
太く、太く、太く、なつて來る。
馭者の吹く口笛、
冴え渡る鈴の音！
譜作の國は眞筌へといそぐ。

バイカルの湖畔に、
冬が去つて夏が來て、
一時に輝く白い花の、
それにしも似た平和の光！

あゝ！
高く胸はとゞろく！
西に住み東に住まう人々の、
胸は高鳴る一様に。

平和！
築くべき人の世の心の平和、
道は遠い！
然し、太陽は高く笑ふ。
開けたる一條の道、
あゝ！なつかしの
友の家郷も近くなつた。

員諸姉飾り種々準備をなす
午後一時より續々會葬者見え初め、さしも
の青山會館講堂、人をもつてうづまる、五
時頃散式
即刻會葬者に對し禮狀を書く約千通

▽廿七日(土)午前十一時より多摩の墓地にて
埋骨式を行ふ

▽廿九日(月)告別式の後始末に就き種々協議
の爲め小崎會頭、林副會頭、ガントレット
夫人、久布白、皆川、川崎の諸理事打合せ
をせらる

七月

▽六日(月)婦人ホームにて理事會開催

▽十六日(木)ガントレット夫人等多摩へ墓參
に、元山兄輕井澤のキャンプに出發

▽十九日(日)ガントレット、岡部高田支部發
會式に臨む爲め出發

▽廿日(月)高田支部發會式午後七時より開
催、吉田讓子姉支部長就任、この日久布白
幹事關西地方を經て滿鮮地方への長き旅に
向はる

▽二十二日(水)高田の一行市長、新聞社、高
等女學校長訪問、支部の將來の援助を依賴
し來る

408

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

活動

豐岡支部

故矢嶋先生の御葬式が執行さるゝ、六月二十六日當支部にても同志の者が集りまして追悼會を催しました。

額に入つてをります先生の御寫眞（七十九歲でいらせられた時）と其側に先生の御筆なる詩篇百四六のものは黑リボンを以つて蔽れ其周圍も亦黑を以つて蔽れ其中に白の花もてかざられて居た會堂が私共の追悼の會場でございました出席者四十名程で故人につきての支部長の御話しを通して先生の愛のお働きもつたへられ猶此世より既に去られしも神に在りて永遠に我等の中に生きて働き給ふ事に依つて勇氣づけられました。其後で二三人の來賓の追悼の御言葉あり靜かに清い空氣が會堂に溢れ四時閉會致しました。

名寄支部

去る六月二十六日私共僅かの會員ではございますが天鹽教會に於いて支部長小北要子姉司會の下に故矢嶋先生の追悼を致しました。

東京に於ける御葬式と同刻午後二時より會員有志十三名ばかり參會致しまして最近のお寫眞を飾り濱田牧師司會者高木鐵一氏小北千代野所感があり、他に二三名の祈禱がありまして先生のお遺し下さいました偉大な御事業及びに高い御人格深い信仰の御生涯に就いて靜かに考へる事が出來、四時頃、靈味豊かに終りました。時に降り出しました雨は恰も天地擧つて先生の御昇天をお悼み申してゐる樣が致しました。私共會員は心して幾分にても先生の御足の跡を歩んで行きたいと存じます。

小北千代野

福山支部

五月改選の結果の役員並に御報告いたします。會長　藤井俊榮　副會長　曾山きよ　横田きよ　會計　渡邊光代　書記　澁谷初子　七に九、十日には家庭部として料理講習會を開くつもりです、本日午後にはガルゲー先生の後任として參られしミスナッシュの歡迎會を開きます。どうぞ此支部の爲皆さまの御祈禱を願ひます。

福山市にては矯風會なるものを漸く市役所等にても重要視して參りました。折角の此會なと存じ幹部は頭を痛めています神の加護をいのりつゝ筆とむ。

藤井俊榮

大邱支部

久布白先生には暑も加り行く折柄に御元氣益加へられて御事業の爲に遠い滿洲朝鮮各地の支部を御尋れ下さいます事となられ誠に誠に我等うれしく感謝致して居ります。我大邱支部に御來巡下さる時は八月十五日頃とありますが、其の日を御まち申上此の機會を幸に本年も又前々より準備致しまして、多くの婦人の爲に先生の御話を大邱の爲戴き度く存じます。只今支部長は旅行中でありますけれ共別に支部は差支なく一日も早く先生の御來邱を御まち申上ます本年五月十七日から私も副支部長の名の許に選擧されまして只今は支部長の留守を引受て働き居りますので、まだ何の力も信仰もないものでは御座いますが今日迄の大邱のれむれる婦風會支部をも少しゆり動し度い役員會員の方々の昔しからなる大邱支部の習慣といひますか風習と申ますか、そんな事を改めてどん〳〵進で婦人方の御集りだけでも盛にして今少々會の上にも働きの上にも婦人の力を用ふるやうにして見度いと考へました處から、私は決心致しまして矢嶋先生の御葬式の二十六日を大邱に於てし二十六日の夜日本基督教會堂に於て婦風會員はもとより一般來會自由にして故矢嶋先生の追悼大講演會を開きました。

當夜の集を盛大ならしむる爲に新聞に於ても又町々の辻にも大々的に廣告致しましたので台堂には初めて見えた人々も多數あり、又男子もあり惠まれたる盛大な集りでありましたし當地の新聞は其後書きました。

大邱に於て大邱土着の婦人が演壇に立ちしは此度が初てであり「大邱も目ざめたり」云：：好評！！を受けましたが此度演壇に立ちし二名の講演者は眞實の處女演說でありましたが、幸ひに力なき者にも神は此の者等を御使い下さいまして、大膽にも口を開かしめ給ひました。さうしまして當夜は、會堂の正面に矢嶋先生の六月號婦人新報にありました御寫眞を切ぬき、花輪と十字架を以てかざり御追悼申上げました。本年から支部の義務も全會員皆々力を合せる樣致し、折々本部からの御名士を御迎へ申上げて眠れる我等の頭を時々御醒し下さいます樣願上ます。

現在役員は　支部長　中山政子　副支部長　高島豊子　會計　岡本常子　書記　上田秀子

通信書記　阿佐見道子

高島豊子

編輯室から

◇七月號が皆樣ご存じのやうなわけで發行が遅れた上に、發行人の變更のことで、鳳がなか〳〵手間取つたりして、御手許に非常におくれて到着したことを相濟まなく思つて居ります。今後はこんなに遅れるやうなことのないやうに致します。

◇もう土用に入つて誰しも暑いのに閉口してゐますが、「炎熱と闘ひつゝ」といつたやうな語に多少、自分を勵奮させて仕事をするのもいゝ氣持ちです。

◇久布白幹事はこの炎熱を冒して滿鮮地方巡廻の途につかれました。熱誠溢るゝ同姉の活動振りには、毎日のやうに顔を合せて親しみ乍らも感激させられます。滿鮮の同志諸姉よ、今後の會の働きの上に、同姉と深く親しんで頂き度い。

◇本部事務所は七月廿五日から八月廿五日迄仕事を休みます。尤も誰か留守居は致しますが、どうかそのおつもりで。若い人達が一年一度のこの休みをどういふ樣に過さうかと眼を輝かして相談してゐるのも見てゐて愉快です、プロはプロらしく、而も樂しく氣持ちよく過したい人達なのです。

◇守屋姉の南洋のおみやげは定めし皆をあッと言はせるものばかりでせう。南洋！　そして可なりロマンチイツクな守屋さんの二ヶ月の海上の旅！　なんだかかうほゝゑまれますね！　（靜　枝）

個人消息

◇小崎會頭　七月七日より相州茅ヶ崎へ。

◇久布白幹事　七月廿一日出發滿洲朝鮮地方支部巡廻講演の途にのぼらる。

◇守屋幹事　南洋への二ヶ月の旅程を無事終り七月廿六日横濱着歸京の豫定。

◇ガントレツト副會頭　七月廿一日高岡市に支部設立の爲岡部姉と共に出發。

◇千本木道子姉　エヂンバラに開かれし萬國婦人矯風會大會に出席されしとの通知があつた。

◇山田やす子氏　特に婦人勞働問題研究の爲七月廿二日發一ヶ年間の豫定で英國に向はる。

◇山室軍平氏　七月上旬英國に向け使命を帶びて出發さる。

◇松岡おさ子氏　數年前より米國に留學中の芝支部會員たる同氏は、エヂンバラの萬國大會に千本木姉と共に出席されし由。

社告

婦人新報定價

一部二十錢郵税五厘

半年分一圓二十錢 / 一年分二圓四十錢　郵税共

（但し海外は郵税別）

◇廣告御希望の方へは詳細お知らせ致します。

◇送金は凡て振替が便利でございます。

◇誌代は前金、切手代用は一割増。

振替口座東京三二四六九
電話四谷六五六〇番
編輯及事務所婦人矯風會本部

大正十四年七月廿八日印刷
大正十四年八月一日發行
發行兼印刷人　小崎千代
編輯人　久布白落實
發行所　東京市外大久保百人町三百六十番地　婦人新報社
印刷所　東京市小石川區久堅町百八　株式會社博文館印刷所